

ザクロ生産輸出業者協会会長インタビュー記事

4月7日にアゼルバイジャンの通信社(report.az)が配信した、フェルハド・ガラソイ・アゼルバイジャンザクロ生産・輸出業者協会会長へのインタビュー記事の要旨をご紹介します。

1. ザクロはアゼルバイジャンの非エネルギー部門の産品として重要です。アゼルバイジャンのザクロの品種の豊かさは世界一で、チャフライ・ギュロイシャ、バラ・ムルサル、アゼルバイジャン・ギョリヨイシャシ、ナジック・ガビック、ヴァラス、イリイ・ギリヤなど多くの品種があり、全国で2.3万ヘクタールの総作付面積があります。新型コロナウイルスの感染拡大は抗酸化効果によってウイルスの抵抗力を高めるザクロへの需要を高めています。
2. 2020年のアゼルバイジャンのザクロ生産量は18.2万トン、そのうち11%(1.9万トン)が輸出され、生果実の輸出から約2,400万ドル、ジュースの輸出から約2,500万ドルの外貨収入があります。これまでの輸出先の上位はロシアとウクライナです。
3. 協会としては新たな市場開拓を模索中で、当面カタル、ア首連に関心がありますが、ア首連についてはインドからより安価なザクロが既に輸出されていて、ロジスティクス、コストの観点から現時点では採算が合いません。ただし、アゼルバイジャン産ザクロはインド産より高品質です。今後、欧州諸国への輸出も有望です。欧州ではより高価格での輸出が期待でき、農家の収入及び外貨収入の増加にも貢献します。
4. 他方で農家が直面している問題として、人手不足、専門の農業技術者の不在、資金調達へのアクセスが限られていることがあります。その観点から、農家への政府補助金は有効な対策です。地方開発省は地力の低下を被った農地での土地改良及び作付のため1回限り5,000マナトの補助金を支給していますが、これを活用してザクロの集中栽培農園の開発ができれば、農業部門の発展と農家の所得増加にも寄与します。
5. カラバフの解放地域でのザクロ栽培も有望です。アルメニアによる占領以前にはアグダム、グバドル、ゼンギランにザクロ農園がありましたが、今後の開発に適した土地の選定のため、専門的な調査が期待される。勿論、まずは地雷や不発弾を処理し安全が確保されることが前提です。

(以上)